

平成 30 年 4 月 26 日

会 員 各 位

構 造 懇 話 会
会 長 森 川 英 典

第 496 回 構造懇話会 平成 29 年度 例会のご案内

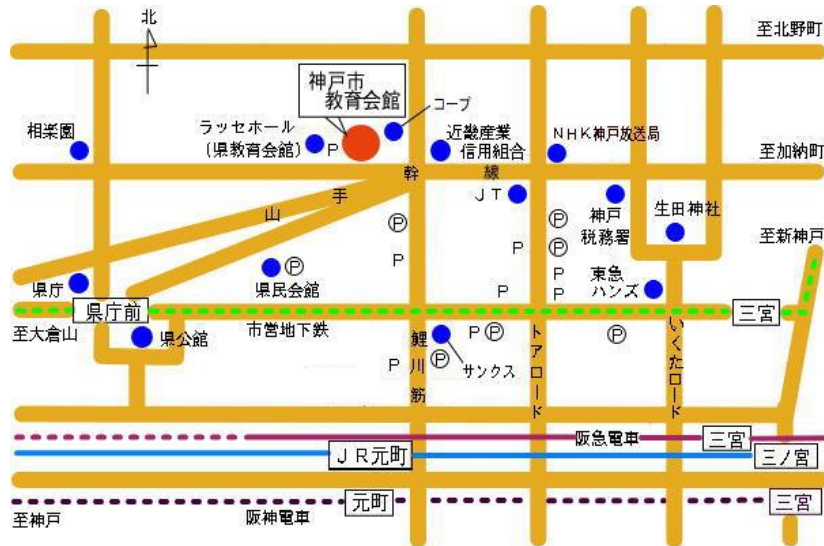
構造懇話会の運営に際しまして、日頃よりご支援賜り、誠に有難うございます。
標記の平成 29 年度例会を下記のとおり開催いたします。
つきましては、多数ご出席下さいますようご案内申し上げます。

記

1. 日 時 平成 30 年 4 月 26 日 (木) 13:15～17:00
2. 場 所 **神戸市教育会館 404 号室**
神戸市中央区中山手通 4-10-5 TEL 078-222-4111
3. 議 題
 - 1) 運営委員会 13:15～14:05
休憩 14:05～14:15
 - 2) 例会 ①部 14:15～15:10
『長大橋保全業務の取り組み』
株式会社ブリッジ・エンジニアリング 山田 郁夫 氏
休憩 15:10～15:20
 - 3) 例会 ②部 15:20～16:15
『道路橋示方書改定の設計業務への影響とコンサルタントとしての取り組み』
株式会社長大 浅田 麻里 氏
休憩 16:15～16:25
 - 4) 50 周年記念事業WG 16:25～17:00

[連絡先] 〒530-0012 大阪市北区芝田 1-4-8 北阪急ビル 4 階
阪急設計コンサルタント株式会社 岡重 嘉泰
TEL : 06-6359-2756 / FAX : 06-6359-2762 / e-mail : okashige-y873@sekkei.hankyu.co.jp

[案内図]



構造懇話会 URL <http://www.kozokonwakai.org/>

第 496 回 構造懇話会 例会での報告概要

1. 『長大橋保全業務の取り組み』

①報告者 株式会社ブリッジ・エンジニアリング 技術事業本部長 山田 郁夫

②報告内容

(株)ブリッジ・エンジニアリングは、本州四国連絡橋の部分供用とともに、1985年に本四エンジニアリングとして設立され、本四3ルート供用後の2000年に現在の社名に変更された。現在、本州四国連絡高速道路(株)のグループ会社として、主に海峡部長大橋の保全業務を担当し、点検管理・補修工事を実施している。

本州四国連絡橋は、代替路線のない貴重な社会資本であり、200年以上の長期にわたり利用できるよう、グループ一丸となって維持管理に努めている。特に、長大橋ではアセットマネジメントの考え方を導入し、体系的な予防保全を基本として、長寿命化およびライフサイクルコストの最小化を図っている。

弊社においては、塗膜調査・塗料開発による塗り替え費用の低減、点検技術の高度化による点検費用の節減などの調査検討を実施している。また、点検機器・計測機器等の技術開発も実施している。

本報告では、長大橋の保全業務における各種の取り組みを紹介するものである。

2. 『道路橋示方書改定の設計業務への影響とコンサルタントとしての取り組み』

①報告者 株式会社長大 構造事業本部 第二構造事業部 構造技術1部 浅田 麻里

②報告内容

平成29年11月、道路橋の新設・改築設計に用いる「橋、高架の道路等の技術基準」(道路橋示方書)が、4年ぶりに改定された。今改定では、災害時における早期の機能復旧の実現や、維持管理・更新費用の増大、建設生産現場における担い手の不足といった課題を背景に、道路橋として満足すべき性能が明確に規定され、その照査の前提となる新たな設計手法(限界状態設計法および部分係数法)が導入された。また、設計段階において長期的視点での維持管理・更新計画に配慮することが規定された。改定により、技術革新による新しい材料や構造形式、維持管理手法等を、要求性能という統一的な指標で評価することが可能となり、橋としての交通機能や構造安全性の確保、効率的な維持管理の実施、建設生産性の向上に対して、より合理的、多角的な技術的アプローチが可能となることが期待されている。

本話題提供では、道路橋示方書の改定に伴う橋梁設計業務への影響等について、コンサルタントとしての視点から概説するとともに、今後活用の増加が見込まれる点検ロボット等による新しい維持管理システムや、建設生産性向上に寄与するCIMの最新の活用事例についても紹介する。